

# 景況レポート

No.149

2024年10月～12月期



北見しんきん

〒090-8711 北見市大通東1丁目2番地1

電話(代) 0157-24-7531

URL: <https://www.shinkin.co.jp/kitami/>

本レポートはホームページでもご覧になれます。

## 景気動向

### 道内景気

日本銀行札幌支店が12月13日に発表した12月の企業短期経済観測調査結果(短観)によりますと、道内企業の景況感を示す業況判断指数(DI:「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値)は全産業で『19』となり、前回の調査『18』から改善しました。内訳では、製造業(前回2→今回6)は改善、非製造業(前回23→今回24)も改善でした。2025年3月までの全産業での先行き予測は9と、悪化の見通しです。

また12月13日に発表された道内の金融経済概況は次の通りです。道内の景気は、一部に弱めの動きがみられるが、持ち直している。公共投資は、高水準で推移している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、堅調に推移している。観光は、緩やかに増加している。設備投資は、緩やかに増加している。輸出は、回復している。住宅投資は、減少している。生産は、横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。雇用・所得情勢をみると、緩やかに改善している。

【公共投資】 高水準で推移している。

【個人消費】 百貨店は、回復のペースが鈍化している。スーパーは、底堅い動きとなっている。コンビニエンスストアは、横ばい圏内の動きとなっている。ドラッグストアは、増勢が鈍化している。家電販売は、弱めの動きとなっている。乗用車販売は、下げ止まっている。サービス消費は、緩やかに増加している。

【観光】 緩やかに増加している。

【新設住宅着工戸数】 持家、分譲は、減少している。貸家は、緩やかに持ち直している。

【生産(鉱工業生産)】 横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。主要業種別にみると、食料品は、横ばい圏内の動きとなっている。輸送機械は、持ち直している。金属製品は、弱めの動きとなっている。電気機械は、持ち直しの動きが一服している。

【雇用・所得情勢】 緩やかに改善している。

【消費者物価(除く生鮮食品)】 前年を上回って推移している。なお、前年比伸び率は前月並みとなった。

【企業倒産】 増勢が鈍化している。

### 地区内景気

今回の当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDI値は、売上高が▲14と4ポイントの改善、収益は▲17と4ポイントの改善でした。直前3ヵ月と比較した今後3ヵ月の見通しでは、売上DI値は▲29、収益DI値は▲29となり、ともに悪化の見通しとなっています。

# 特別調査【2025年（令和7年）の経営見通し】

当地方における2025年の経営見通しをお尋ねしました。

## 【日本の景気】

「良い」の回答合計は7.3%となり、昨年の調査(7.2%)とほぼ同様となりました。一方、「悪い」の回答合計は60.3%となり、昨年の調査(63.6%)から減少しています。「普通」の回答合計は32.4%となり、昨年の調査(29.3%)から増加しています。

## 【自社の業況】

「良い」の回答合計は10.6%で昨年の調査(11.7%)から減少しています。「悪い」の回答合計は52.5%(昨年46.4%)となり、昨年の調査から増加しました。「普通」は36.9%(昨年42.0%)となり、昨年の調査から減少しています。

## 【売上額の伸び率】

「増加」の回答合計は26.4%となり、昨年の調査(26.5%)とほぼ同様で、「減少」の回答合計は34.3%(昨年32.6%)となり、昨年の調査から増加しました。「変わらない」は39.3%となり、昨年の調査(40.9%)から減少しています。

昨年と同様に、「減少」の回答合計が「増加」の回答合計を上回っています。

## 【自社の業況が上向き転換点】

「すでに上向きしている」は12.4%となり、昨年の調査(17.5%)から減少しました。

また、「業況改善の見通しは立たない」は41.3%となり、昨年の調査(35.6%)から増加しました。

## 【脱炭素化への取組み】

意見の多い順に、「特にない」が41.9%、「事例の紹介」が18.6%、「行政からの支援内容の紹介」が17.4%、「設備導入支援」が13.4%となり、全国の結果と同様の順序となりました。

信用金庫業界の取組状況については、「知らない」が73.3%と「知っている」の26.7%を大きく上回り、これも全国の結果とほぼ同様の割合となっています。

【貴社では、2025年の日本の景気をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。】

		《全国》
1. 非常に良い	0.0%	0.3%
2. 良い	0.0%	1.5%
3. やや良い	7.3%	7.9%
4. 普通	32.4%	39.6%
5. やや悪い	41.3%	38.3%
6. 悪い	16.8%	11.2%
7. 非常に悪い	2.2%	1.3%

【貴社では、2025年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。】

		《全国》
1. 非常に良い	0.0%	0.3%
2. 良い	1.7%	2.2%
3. やや良い	8.9%	11.6%
4. 普通	36.9%	51.1%
5. やや悪い	36.9%	27.9%
6. 悪い	14.5%	6.0%
7. 非常に悪い	1.1%	0.9%

【2025年において貴社の売上額の伸び率は、2024年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。】

		《全国》
1. 30%以上の増加	0.6%	0.9%
2. 20~29%の増加	1.1%	1.5%
3. 10~19%の増加	4.5%	8.5%
4. 10%未満の増加	20.2%	22.8%
5. 変わらない	39.3%	44.2%
6. 10%未満の減少	22.5%	15.1%
7. 10~19%の減少	7.9%	4.6%
8. 20~29%の減少	2.8%	1.3%
9. 30%以上の減少	1.1%	1.1%

【貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。】

		《全国》
1. すでに上向きしている	12.4%	19.3%
2. 6か月以内	6.2%	9.4%
3. 1年後	14.1%	17.7%
4. 2年後	6.8%	10.9%
5. 3年後	10.7%	10.0%
6. 3年超	8.5%	7.2%
7. 業況改善の見通しは立たない	41.3%	25.4%

『脱炭素化への取組み(具体的な例は下の枠の中をご覧ください)についてお伺いします。』

脱炭素化に向けた取組みの事例  
情報提供：コスト削減事例の紹介、行政からの支援内容の紹介  
現状把握：CO2排出量の算出サービスの紹介  
計画策定：省エネ診断の紹介、CO2排出量削減計画の策定支援  
対策実行：LED・高効率空調・太陽光発電の導入支援  
資金供給：サステナブルファイナンス(SDGs・脱炭素化対応融資)

【貴社は、脱炭素化に向けて、信用金庫業界に対して期待する取組みはありますか。1~8の中から最も当てはまるものを1つ選んでお答えください。また、貴社は、信用金庫業界が地域のために積極的に上の枠の取組みを行っていることを知っていますか。9~0の中から1つ選んでお答えください。】

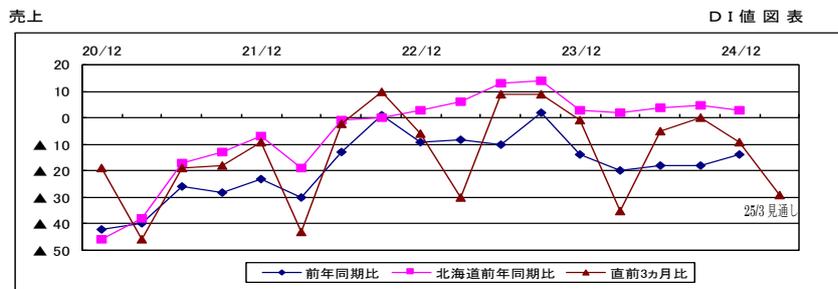
(信用金庫業界に期待する取組み)		《全国》
1. 事例の紹介	18.6%	21.2%
2. 行政からの支援内容の紹介	17.4%	16.9%
3. CO2排出量の算出	2.3%	2.1%
4. 省エネ診断	3.5%	2.9%
5. 削減計画の策定	1.7%	3.3%
6. 設備導入支援	13.4%	12.4%
7. サステナブルファイナンス	1.2%	2.2%
8. 特にない	41.9%	38.9%
(信用金庫業界の取組状況)		
9. 知っている	26.7%	27.5%
0. 知らない	73.3%	72.5%

売上

調査対象先企業 181 社の売上を総体的にみますと、前年同期（23 年 10～12 月）と比較して「増加」した先 24%、「変わらず」の先 38%、「減少」した先 38%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲14 となり、前回調査より 4 ポイント改善しました。

業種別で見ますと、製造業、小売業、建設業は改善、卸売業、サービス業は悪化となっています。

3 ヶ月毎の比較では悪化、今後 3 ヶ月も悪化の見込みです。



調査時期	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
前年同期比	▲42	▲40	▲26	▲28	▲23	▲30	▲13	1	▲9	▲8	▲10	2	▲14	▲20	▲18	▲18	▲14

調査時期	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
北海道前年同期比	▲46	▲38	▲17	▲13	▲7	▲19	▲1	0	3	6	13	14	3	2	4	5	3

調査時期	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	
直前3ヵ月比	▲19	▲46	▲19	▲18	▲9	▲43	▲2	10	▲6	▲30	9	9	▲1	▲35	▲5	0	▲9	▲29

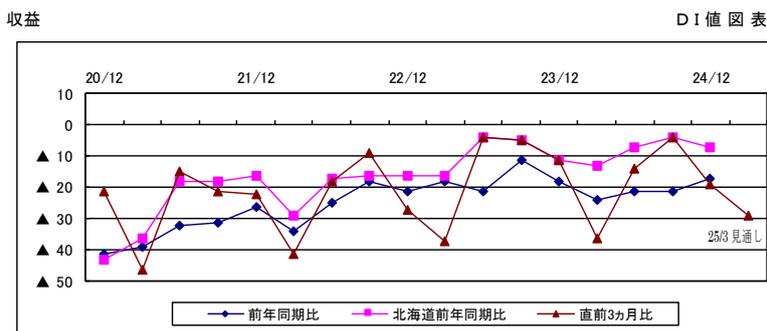
グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

収益

調査対象先企業 181 社の収益を総体的にみますと、前年同期（23 年 10～12 月）と比較して「増加」した先 22%、「変わらず」の先 39%、「減少」した先 39%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲17 となり、前回調査より 4 ポイント改善しました。

業種別で見ますと、製造業、建設業、サービス業は改善、卸売業は横ばい、小売業は悪化となっています。

3 ヶ月毎の比較では悪化、今後 3 ヶ月も悪化の見込みです。



調査時期	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
前年同期比	▲41	▲39	▲32	▲31	▲26	▲34	▲25	▲18	▲21	▲18	▲21	▲11	▲18	▲24	▲21	▲21	▲17

調査時期	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
北海道前年同期比	▲43	▲36	▲18	▲18	▲16	▲29	▲17	▲16	▲16	▲16	▲4	▲5	▲11	▲13	▲7	▲4	▲7

調査時期	20/12	21/3	21/6	21/9	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	
直前3ヵ月比	▲21	▲46	▲15	▲21	▲22	▲41	▲18	▲9	▲27	▲37	▲4	▲5	▲11	▲36	▲14	▲4	▲19	▲29

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。

概況

調査先製造業全体の業況を前年同期(23年10~12月)と比較してみますと、売上で「増加」した先29%、「変わらず」の先32%、「減少」した先39%で、そのDI値(増加割合-減少割合)は▲10となり、前回調査より6ポイント改善しました。

収益は「増加」した先26%、「変わらず」の先29%、「減少」した先45%で、そのDI値(増加割合-減少割合)は▲19となり、前回調査より13ポイント改善しました。

調査回答数(前年同期比)

		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(24/9)	8	10	13	▲16
	今回(24/12)	9	10	12	▲10
収益	前回(24/9)	4	13	14	▲32
	今回(24/12)	8	9	14	▲19

動向

【前年同期との比較】

売上、収益ともに改善しました。

内訳をみますと、食料品、その他の売上と収益、建設の収益は改善、木材の売上と収益、建設の売上は悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上は改善、収益は横ばいとなりました。

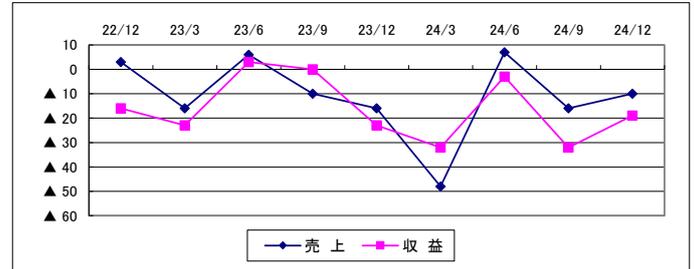
【今後3ヵ月の見通し】

売上、収益ともに悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「公共工事を主体に受注し、売上は前年度同程度にて推移、今後は民間工事の受注増加を図るべく営業強化」、「天候により工事進捗が左右されるほか、原材料高騰による影響が大きいことが課題」、「機械の販売価格上昇により売上・収益は増加、販売先の業況に左右される傾向」といったものがありました。

前年同期比

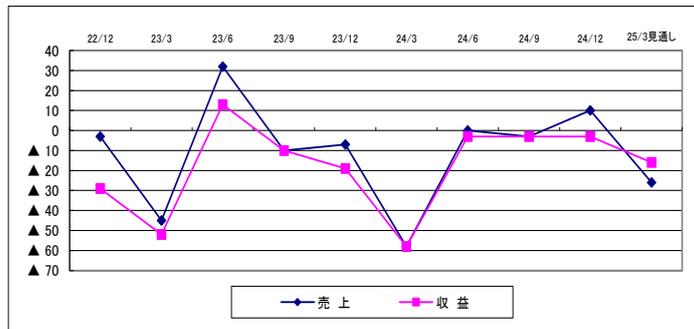
DI値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
売上	3	▲16	6	▲10	▲16	▲48	7	▲16	▲10
収益	▲16	▲23	3	0	▲23	▲32	▲3	▲32	▲19

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3見通し
売上	▲3	▲45	32	▲10	▲7	▲58	0	▲3	10	▲26
収益	▲29	▲52	13	▲10	▲19	▲58	▲3	▲3	▲3	▲16

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	木材製品	建設関連	その他
売上額	7月~9月と比較	10	25	▲22	38	0
	1月~3月の見通し	▲26	▲25	▲67	25	▲33
収益	7月~9月と比較	▲3	▲13	▲22	25	0
	1月~3月の見通し	▲16	▲25	▲45	25	▲16
販売価格	7月~9月と比較	10	25	0	13	0
	1月~3月の見通し	10	13	0	13	17
原材料価格	7月~9月と比較	48	75	22	50	50
	1月~3月の見通し	23	37	0	25	33
原材料在庫	7月~9月と比較	▲13	▲25	▲33	13	0
	1月~3月の見通し	▲10	▲13	▲11	0	▲17
資金繰	7月~9月と比較	▲10	0	▲22	0	▲17
	1月~3月の見通し	▲19	0	▲44	▲13	▲17

## 概況

調査先卸売業全体の業況を前年同期(23年10~12月)と比較してみますと、売上で「増加」した先23%、「変わらず」の先45%、「減少」した先32%で、そのD I値(増加割合-減少割合)は▲9となり、前回調査より14ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先18%、「変わらず」の先50%、「減少」した先32%で、そのD I値(増加割合-減少割合)は▲14となり、前回調査と同じでした。

販売価格は「増加」した先46%、「変わらず」の先54%、「減少」した先0%で、そのD I値(増加割合-減少割合)は46となり、前回調査より5ポイント上昇しました。

## 調査回答数(前年同期比)

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(24/9)	8	7	7	5
	今回(24/12)	5	10	7	▲9
収益	前回(24/9)	5	9	8	▲14
	今回(24/12)	4	11	7	▲14
販売価格	前回(24/9)	12	7	3	41
	今回(24/12)	10	12	0	46

## 動向

## 【前年同期との比較】

売上は悪化、収益は横ばい、販売価格は上昇しました。内訳をみますと、食料品は売上、収益とも横ばい、建設関連は売上、収益とも悪化、その他は売上、収益とも改善しています。販売価格は食料品が横ばい、建設関連は下降、その他は上昇となっています。

## 【直前3ヵ月との比較】

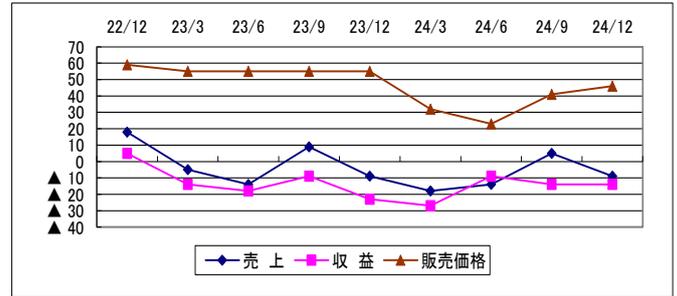
売上、収益とも悪化、販売価格は下降しました。

## 【今後3ヵ月の見通し】

売上、収益とも悪化、販売価格は下降の見通しです。

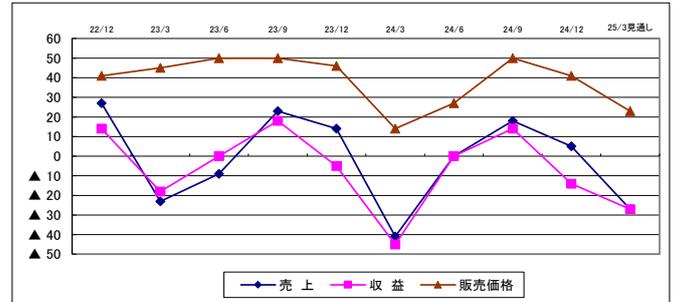
調査員のコメントには、「原価は値上がりが続き、売価に反映させ収益性を維持」、「天候により業況が左右され事業計画が立てづらいことが課題」といったものがありました。

前年同期比 DI値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
売上	18	▲5	▲14	9	▲9	▲18	▲14	5	▲9
収益	5	▲14	▲18	▲9	▲23	▲27	▲9	▲14	▲14
販売価格	59	55	55	55	55	32	23	41	46

直前3ヵ月比 DI値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3見通し
売上	27	▲23	▲9	23	14	▲41	0	18	5	▲27
収益	14	▲18	0	18	▲5	▲45	0	14	▲14	▲27
販売価格	41	45	50	50	46	14	27	50	41	23

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	建設関連	その他
売上額	7月~9月と比較	5	33	▲11	0
	1月~3月の見通し	▲27	▲33	▲67	29
収益	7月~9月と比較	▲14	17	▲33	▲14
	1月~3月の見通し	▲27	▲17	▲78	29
販売価格	7月~9月と比較	41	33	33	57
	1月~3月の見通し	23	17	0	57
仕入価格	7月~9月と比較	46	50	33	57
	1月~3月の見通し	27	17	11	57
在庫	7月~9月と比較	9	17	0	14
	1月~3月の見通し	9	0	11	14
資金繰	7月~9月と比較	9	17	11	0
	1月~3月の見通し	▲9	0	▲11	▲14

## 概況

調査先小売業全体の業況を前年同期（23年10～12月）と比較してみますと、売上で「増加」した先20%、「変らず」の先48%、「減少」した先32%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲12となり、前回調査より5ポイント改善しました。

収益は「増加」した先15%、「変らず」の先43%、「減少」した先42%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲27となり、前回調査より17ポイント悪化しました。

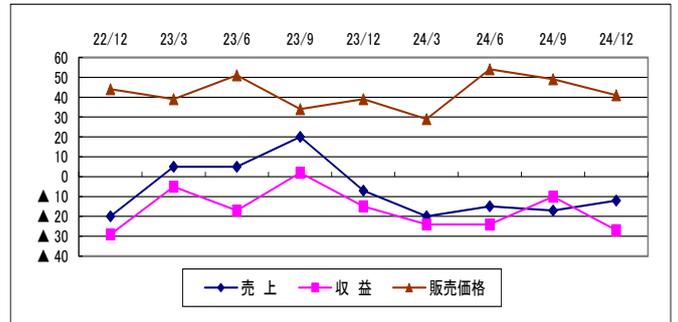
販売価格は「増加」した先51%、「変らず」の先39%、「減少」した先10%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は41となり、前回調査より8ポイント下降しました。

### 調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(24/9)	9	16	16	▲17
	今回(24/12)	8	20	13	▲12
収益	前回(24/9)	10	17	14	▲10
	今回(24/12)	6	18	17	▲27
販売価格	前回(24/9)	24	13	4	49
	今回(24/12)	21	16	4	41

前年同期比

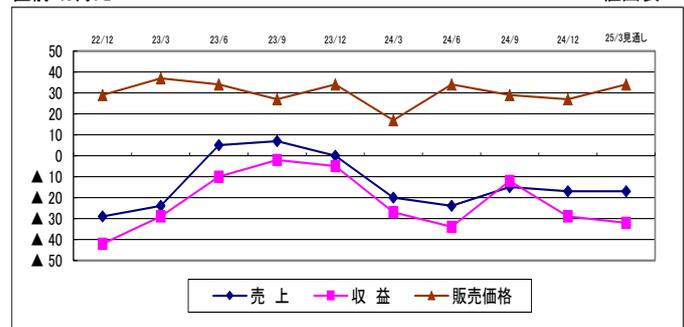
D I 値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
売上	▲20	5	5	20	▲7	▲20	▲15	▲17	▲12
収益	▲29	▲5	▲17	2	▲15	▲24	▲24	▲10	▲27
販売価格	44	39	51	34	39	29	54	49	41

直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3見通し
売上	▲29	▲24	5	7	0	▲20	▲24	▲15	▲17	▲17
収益	▲42	▲29	▲10	▲2	▲5	▲27	▲34	▲12	▲29	▲32
販売価格	29	37	34	27	34	17	34	29	27	34

## 動向

### 【前年同期との比較】

売上は改善、収益は悪化、販売価格は下降しました。内訳をみますと、衣料品、食料品の売上は改善、その他の売上は横ばい、全ての業種で収益は悪化、販売価格は衣料品、その他で横ばい、食料品は下降となっています。

### 【直前3ヵ月との比較】

売上、収益は悪化、販売価格は下降しました。

### 【今後3ヵ月の見通し】

売上は横ばい、収益は悪化、販売価格は上昇の見通しです。調査員のコメントには、「少子高齢化の影響もあり販売量は減少」、「売上より収益性重視の方針に転換している」、「量販店には無い商品により差別化を図るも、個人販売は伸び悩む状況」、「販売価格は増加傾向だが売上は減少」などがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(D I 値による) (%)

項目		全体	衣料品	食料品	その他
売上額	7月～9月と比較	▲17	▲50	0	▲22
	1月～3月の見通し	▲17	▲83	▲24	11
収益	7月～9月と比較	▲29	▲67	▲18	▲28
	1月～3月の見通し	▲32	▲100	▲29	▲11
販売価格	7月～9月と比較	27	17	41	17
	1月～3月の見通し	34	33	41	28
仕入価格	7月～9月と比較	46	33	59	39
	1月～3月の見通し	44	33	47	44
在庫	7月～9月と比較	3	▲33	18	0
	1月～3月の見通し	▲5	▲33	12	▲11
資金繰	7月～9月と比較	▲15	▲67	0	▲11
	1月～3月の見通し	▲17	▲67	▲6	▲11

## 概況

調査先建設業全体の業況を前年同期（23年10～12月）と比較してみますと、売上で「増加」した先23%、「変わらず」の先34%、「減少」した先43%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲20となり、前回調査より20ポイント改善しました。

収益は「増加」した先23%、「変わらず」の先40%、「減少」した先37%で、そのD I値（増加割合－減少割合）は▲14となり、前回調査より26ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(24/9)	2	17	16	▲40
	今回(24/12)	8	12	15	▲20
収益	前回(24/9)	1	19	15	▲40
	今回(24/12)	8	14	13	▲14

## 動向

### 【前年同期との比較】

売上、収益ともに改善となりました。

内訳のD I 値の推移は以下のようになっています。

- ・ 土木売上：前回▲46→今回▲23
- ・ 同 収益：前回▲31→今回▲8
- ・ 建築売上：前回▲35→今回▲18
- ・ 同 収益：前回▲41→今回▲18

### 【直前3ヵ月との比較】

売上、収益ともに悪化しました。

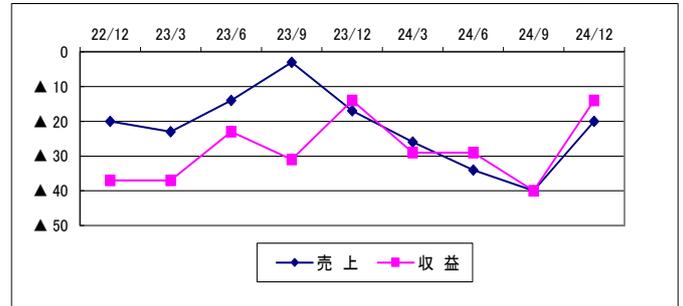
### 【今後3ヵ月の見通し】

売上、収益ともに悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「資材高騰に加え競合の流入により利幅縮小」、「資材高騰による影響はあるが採算管理徹底により利益を確保」、「昨年を上回る売上を見込むも次年度は案件が減少予定」といったものがありました。

前年同期比

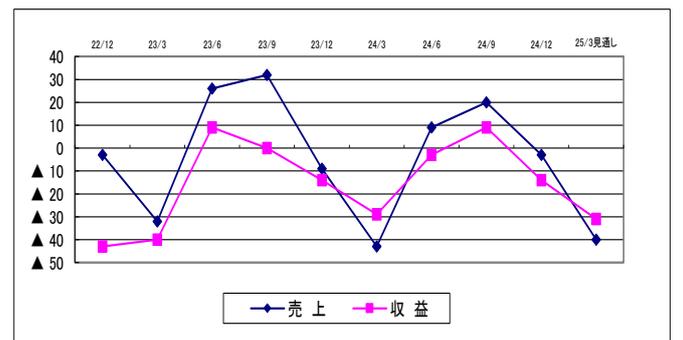
D I 値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
売上	▲20	▲23	▲14	▲3	▲17	▲26	▲34	▲40	▲20
収益	▲37	▲37	▲23	▲31	▲14	▲29	▲29	▲40	▲14

直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3見通し
売上	▲3	▲32	26	32	▲9	▲43	9	20	▲3	▲40
収益	▲43	▲40	9	0	▲14	▲29	▲3	9	▲14	▲31

項目		全体	土木	建築	その他
売上額	7月～9月と比較	▲3	8	▲12	0
	1月～3月の見通し	▲40	▲62	▲30	▲20
施工高	7月～9月と比較	▲6	8	▲18	0
	1月～3月の見通し	▲34	▲54	▲24	▲20
収益	7月～9月と比較	▲14	▲8	▲18	▲20
	1月～3月の見通し	▲31	▲54	▲18	▲20
請負価格	7月～9月と比較	9	8	12	0
	1月～3月の見通し	3	8	0	0
材料価格	7月～9月と比較	54	54	53	60
	1月～3月の見通し	46	54	41	40
在庫	7月～9月と比較	0	▲8	6	0
	1月～3月の見通し	3	0	6	0
資金繰	7月～9月と比較	▲9	▲15	▲6	0
	1月～3月の見通し	0	8	0	▲20

## 概況

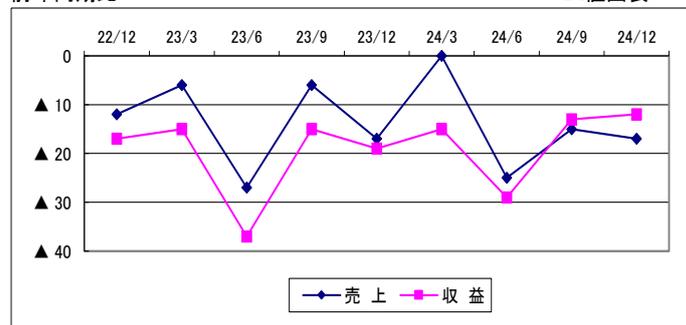
調査先サービス業全体の業況を前年同期（23年10～12月）と比較してみますと、売上で「増加」した先25%、「変わらず」の先33%、「減少」した先42%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲17となり、前回調査より2ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先25%、「変わらず」の先38%、「減少」した先37%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲12となり、前回調査より1ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

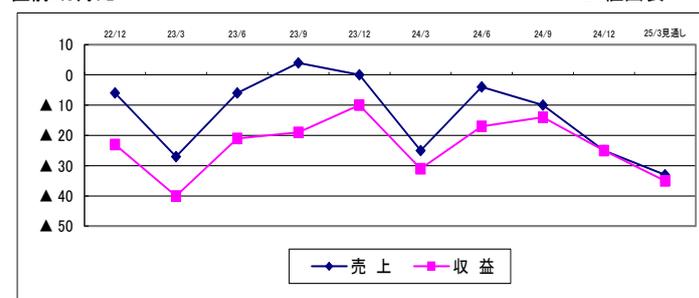
		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(24/9)	12	20	20	▲15
	今回(24/12)	13	17	22	▲17
収益	前回(24/9)	11	23	18	▲13
	今回(24/12)	13	20	19	▲12

前年同期比 DI値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12
売上	▲12	▲6	▲27	▲6	▲17	0	▲25	▲15	▲17
収益	▲17	▲15	▲37	▲15	▲19	▲15	▲29	▲13	▲12

直前3ヵ月比 DI値図表



調査時期	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6	24/9	24/12	25/3見通し
売上	▲6	▲27	▲6	4	0	▲25	▲4	▲10	▲25	▲33
収益	▲23	▲40	▲21	▲19	▲10	▲31	▲17	▲14	▲25	▲35

## 動向

### 【前年同期との比較】

売上は悪化、収益は改善しました。

内訳をみますと、理容は売上、収益ともに悪化、車輛は売上、収益ともに改善、その他の売上は悪化、収益は横ばいとなっています。

### 【直前3ヵ月との比較】

売上、収益ともに悪化しました。

### 【今後3ヵ月の見通し】

売上、収益ともに悪化する見通しです。

調査員のコメントには、「長期的に考えると人材を確保したい」、「設備面で改善意向はあるものの当面は現状維持」、「売上利益とも好調に推移」、「長期的な視点では脱炭素の動向により事業の転換が必要となる可能性がある」、「材料価格上昇に合わせて価格転嫁しており売上も増加」、「古くからの固定客が多く値上げに踏み切れず」といったものがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	理容美容	車両関係	その他
売上額	7月～9月と比較	▲25	▲67	▲22	▲14
	1月～3月の見通し	▲33	▲45	▲21	▲35
収益	7月～9月と比較	▲25	▲78	▲22	▲10
	1月～3月の見通し	▲35	▲45	▲21	▲38
料金価格	7月～9月と比較	25	22	29	24
	1月～3月の見通し	27	22	29	28
材料価格	7月～9月と比較	52	56	64	45
	1月～3月の見通し	48	45	64	41
資金繰	7月～9月と比較	▲17	▲22	▲14	▲17
	1月～3月の見通し	▲17	▲33	▲21	▲10

経営上の問題点 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	原材料高 61.3%	売上の停滞・減少 41.9%	人件費の増加 35.5%
卸売業	売上の停滞・減少 40.9%	利幅の縮小 36.4%	人手不足 31.8%
小売業	売上の停滞・減少 53.7%	商圏人口の減少 34.1%	人件費の増加 29.3%
建設業	人手不足 60.0%	売上の停滞・減少 51.4%	材料価格の上昇 51.4%
サービス業	売上の停滞・減少 46.2%	材料価格の上昇 30.8%	人手不足 25.0%

経営施策 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	経費を節減する 61.3%	販路を広げる 38.7%	人材を確保する 29.0%
卸売業	経費を節減する 63.6%	情報力を強化する 59.1%	販路を広げる 40.9%
小売業	経費を節減する 56.1%	品揃えを改善する 31.7%	売れ筋商品を取扱う 26.8%
建設業	人材を確保する 68.6%	経費を節減する 48.6%	技術力を高める 31.4%
サービス業	経費を節減する 51.9%	販路を広げる 32.7%	人材を確保する 30.8%

【調査要領】

1. 調査地域 北見地方1市4町（北見市、置戸町、訓子府町、美幌町、津別町）
2. 調査時点 2024年12月  
2024年10月～12月期の実績および見込み  
2025年1月～3月期の見通し
3. 調査対象企業 当金庫お取引先181社（任意抽出）  
回答企業数 181社  
回答率 100%
4. 調査方法 調査表による訪問聞き取り調査  
調査表は信金中央金庫が実施する「全国中小企業景気動向調査」と同一のものを使用
5. 業種別回答企業数

製造業	卸売業	小売業	建設業	サービス業	合計
31	22	41	35	52	181

6. 分析方法 各質問項目を100分比に換算し、パーセント（%）数値による分析を行いました。また、好転か悪化の傾向をみる方法として、「増加割合－減少割合＝判断指数（DI値）」で分析を行いました。

企業の経理事務を便利にサポート  
**インターネットバンキング**  
**WEB-FB**

- 総合振込 ■給与・賞与振込 ■都度振込 ■口座振替 ■入出金明細照会 ■残高照会

**低コスト！**

インターネットが使える環境さえあれば、すぐにご利用が可能です。  
 専用ソフト、専用端末などに余計な経費をかけません。

**効率的！**

総合振込、給与・賞与振込、都度振込、口座振替業務がインターネット経由でスピーディにご利用いただけます。  
 振込や振替のデータは外部ファイルから取り込むこともできます。

**便利！**

登録先の口座以外でも当日振込が可能です。急な振込がオフィスのパソコンから随時できるので便利。  
 また、振込完了や為替エラーなど、重要な連絡を電子メールでタイムリーにお知らせします。

**安心！**

一般者用ID、承認者用ID、管理者用IDの3つのIDで権限設定が可能です。  
 登録したデータの承認を貴社の管理者がダイレクトにできるため、厳密なチェックが可能です。  
 電子証明書とワンタイムパスワードにより、安全にご利用いただけます。

オホーツク圏経済情勢報告（令和6年10月判断）概況

	前回(6年7月判断)	今回(6年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	持ち直しつつある	持ち直しつつある 【判断の据え置きは、令和5年7月判断以降、6期連続】	➡	個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直しつつある。 観光は、緩やかに回復しつつある。 また、雇用は、緩やかに持ち直しつつある。
	前回(6年7月判断)	今回(6年10月判断)	前回比較	
個人消費	物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直しつつある	物価上昇などの影響がみられるものの、持ち直しつつある	➡	
観光	緩やかに持ち直している	緩やかに回復しつつある	↗	
雇用	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	➡	
公共事業	前年を上回る	前年を上回る	➡	
住宅着工	前年を上回る	前年を下回る	↘	
先行き	先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな持ち直しが続くことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。			

(注)6年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。